

アフタヌーンセミナー 1 AS1

2月21日(金) 14:25～15:25

第1会場(松下講堂黎明館)

Rohto

未来の眼科治療 及び診療 | 再生医療から デジタルヘルスまで



座長

西田 幸二 先生
Kohji Nishida

大阪大学大学院医学系研究科
脳神経感覚器外科学(眼科学) 教授



演者

大家 義則 先生
Yoshinori Oie

大阪大学大学院医学系研究科
脳神経感覚器外科学(眼科学) 講師



演者

猪俣 武範 先生
Takenori Inomata

順天堂大学医学部
眼科学講座 准教授

テーマ

角膜の再生医療

本講演では我々が取り組んできました角膜上皮の再生医療を中心に講演させていただきます。対象疾患である角膜上皮幹細胞疲弊症の治療として従来他家角膜輪部移植を行ってきましたが、拒絶反応や感染性角膜炎などの術後合併症のために長期治療成績が不良であることが知られています。我々は独自の再生医療の手法を用いた治療として、培養角膜および口腔粘膜上皮細胞シート移植法を開発し、企業および医師主導治験を行って有効性及び安全性を確認しました。これらはネピックおよびオキュラルとして再生医療製品化され、日本中で用いることができます。またiPS細胞由来角膜上皮を用いた4例を対象とした臨床研究を終了して、今後企業治験を予定しています。

テーマ

デジタルヘルスの眼科臨床 応用に向けた研究開発

眼科診療におけるデジタルヘルスは、眼疾患の早期発見と治療の効率化を目的とした新しいアプローチです。デジタルヘルスには、遠隔診療、モバイルヘルス、人工知能による解析等が含まれ、医療の質と効率を向上させると期待されています。デジタルヘルスの中でもエビデンスに基づき診断・治療・予防等への使用を目的とした医療機器はSaMD (Software as Medical Device)と呼ばれます。そして、SaMDの中でも医学的なエビデンスに基づき診断や治療介入を提供するのがデジタルセラピューティクス(DTx)と定義されます。DTxの導入により、患者ごとに最適化された切れ目のない治療介入による診療の質の向上や、患者や医療従事者の負担軽減が期待されます。これまで演者はスマホアプリ型ドライアイ診断補助用プログラムや、バーチャルリアリティを用いた小児弱視訓練用プログラム医療機器の研究開発に取り組んできました。

そこで本講演では、デジタルヘルスとプログラム医療機器の現状と将来展望について概観し、眼科診療の革新における重要性を論じます。

共催：ロート製薬株式会社